

## 途上国アルバム： テロと自然災害のある楽園、インドネシア共和国

小久保和代  
開発コンサルタント（民間）、SRID 幹事

インドネシアは大小約 15,000 の島々からなる、日本にも馴染み深い国です。今回は 2015 年に次ぐ 2 度目の派遣で、2017 年 8 月と 11 月に計 60 日間滞在しました。リゾートで訪れる人も多い国ですが、近年、宗教に穏健な現職大統領と保守的な元軍最高幹部との対立から小規模なテロ事件が何件か発生しました。バングラデシュで 7 名の日本人がテロの犠牲になった事件が発生したため、海外で働く日本人の安全性の調査がおこなわれることになり、インドネシアも調査の対象となりました。

幸運なことに、派遣期間中テロ事件に遭遇することはありませんでしたが、バリ島で起きた火山噴火のため予定していた同地の調査は中止となり、ロンボク島では調査終了後に地震が発生するなどの自然災害がありました。日本とインドネシアは自然災害の多さにおいて共通しており、自然災害の予防と研究のため同国に多くの支援を行っています。



ジャカルタの中心部を望む



ブカシ県警の警察署



ロンボク島南部の海岸

インドネシアは多種多様な文化、言語の混在を認める「多様性の中の統一」(BHINNEKA TUNGGALIKA) が国是とされ、イスラム教徒 87%、キリスト教徒 9%、ヒンズー教徒 2% など、複数の信教の自由が保障されています。イスラム教徒が多数を占めますが、先に伝来したのはヒンドゥー教でした。11 世紀頃にムスリム商人が往来し始め、13 世紀頃にイスラム化が始まったと言われています。

タイ、マレーシア、シンガポールと国境を接するスマトラ島は、面積が日本の 1.3 倍もある大きな島です。ヒンドゥー教とイスラム教、香辛料貿易を

巡りポルトガル、オランダ、イギリスとのせめぎ合い、第二次世界大戦後の独立戦争、地下資源の利権を巡るインドネシア政府との交渉など、豊かであるが故に多難な運命を背負った地です。スマトラ島沖地震では、インドネシアの他、マレーシア、タイ、スリランカ、インドなど複数の国を跨ぐ22万人の死者・行方不明者と13万人の負傷者が出ました。震源となった島の北端アチェは、我が国の安全情報では渡航禁止地域とされていますが、人々は親日的で、「我が地には泥棒もいないし、銃は規制されているので安全だ」とロ々に話すのが印象的でした。



アチェ市内のイスラム寺院



今も残る日本軍の要塞からマラッカ海峡を望む



津波により内陸5キロまで流された大型発電船

アチェで車を運転してくれたフィクリさんはツアーガイドでもあり、ホテルも経営しています。現地名物の料理屋さんに入れて行ってくれました。料理の皿がテーブルいっぱいにならべられ、選んだ分だけ請求される仕組みです。海の幸にも山の幸にも恵まれた、楽しい食卓でした。



食べた分だけ支払うアチェの料理店



ナシゴレンの昼食



ナシゴレンのディナー



白いご飯とおかず

首都ジャカルタがあるジャワ島の名物はナシゴレンです。冷めても美味しい、熱帯の完全無欠料理だと思います。しかしエアコンが普及した現代、ショッピングセンターには外国の料理店が軒を連ねていて、現地で出会った男性が、「孫と外食すると日本食ばかり食べたがるので、このままでは伝統的なインドネシア料理は廃れてしまう」と心配していました。日本では「ジャワカレー」とよく聞きますが、日本のチェーン店のカレー屋さん以外、ジャワ島のどこにもそれらしいものを見ませんでした。ホテルから一歩街に出ると、これまで見たことのないような果物があちこちで売られています。アチェのドリアンはとびきり美味しくて、果物の王様とされる所以を実感しました。



カラフルな果物屋さん



多種多様な果物が並ぶ



摩訶不思議な果物



ナタデココ入りの果物ジュース

インドネシアのコーヒーはまろやかで飲みやすい味です。トラジャやジャコウネコなど名産がデパートの食品売り場に高価で売られています。お茶もいろいろな種類があります。イスラム教徒は酒類を口にしないので、お茶やお菓子、果物が代替品となるのでしょうか。下戸天国です。



ホテルの朝食のデザートとコーヒー



お茶の見本、ジャカルタの喫茶店で



ボゴールの熱帯植物園で提供されるお茶セット

ジャカルタは郊外からジャカルタ中心地域への交通量が著しく、その激しい交通渋滞と大気汚染はよく知られています。そのためジャカルタ州政府の出資で日本の円借款による「ジャカルタ都市高速鉄道事業」が実施されることになりました。多くの日本企業も参画し、2019年3月に地下鉄が開通しました。同事業も安全評価の対象となっていたため、各日本企業の事務所と地下鉄の工事現場を訪れました。



至るところで練り広げられる交通渋滞



地下鉄工事のために一層激しさを増した渋滞



開通前の地下鉄工事風景

ジャカルタ市内のホテルのセキュリティ体制を確認するために、主だった高級ホテルを訪問しました。どこもクリスマスが近いために西欧風の飾りつけがなされていました。客としての目線では日本のホテルもさほど変わらないように見えますが、安全評価を目的に見ると、次元の違う警備体制が敷かれていることに気付きます。



身体と荷物を検査される



どこもかしこも監視カメラだらけ



銃と犬、怪しい者は通さない



車両の出入も厳重に監視

2005年10月にはバリ島のリゾートホテルで23人が亡くなる大規模なテロ事件が起きたので、現地で働く人の宿舎だけでなく、観光地のホテルも訪

問調査しました。次々とリゾートホテルを訪問するのに観光に関心を示さないのを見て、運転手さんが不思議そうな顔をしていました。



優雅なジョグジャカルタのホテルの前庭



監視カメラと警備員



定期的に開催される消火訓練

ロンボク島は近年開発が進みつつあるリゾート地です。宿泊客は日中には水着とタオル以外の私物を全て残して浜に出払ってしまうため、多くのガードマンが配置されています。しかし、しかめっ面をしたガードマンが下げている銃は、手入れが不十分で錆が浮いている、いざという時に本当に人を撃つことができるかどうかは疑問だと、安全評価の専門家が楽しそうに笑っていました。



ガードマンの銃（ロンボク島）



南国の風情が楽しめるロッジ風ホテル



ホテルのプライベートビーチ



ホテルの庭園

私が滞在した宿舎は現地の人も多く宿泊ホテルだったので、他の宿泊者とも親しくなり、結婚披露宴に招かれたのは楽しい思い出です。ボゴール植物園の中の見晴らしのいい喫茶コーナーに招待されたり、慌ただしい中にも心安らぐ瞬間がありました。

下の右2枚の写真は、ジャワ島の学園都市バンドゥン郊外の農村で撮影しました。右から2番目の写真はアボカドの木です。通り過ぎるオートバイが小さく見るとおり、高さは優に10メートルを超えています。アボカドの実は木で熟すと1キロほどになるので、落ちてきて人の頭を直撃したら大変です。我が家でもアボカドの木を育てていましたが、その高さに驚き、帰国後すぐに植木屋さんに枝を下ろしてもらいました。

右端は、草を編み合わせて作ったシートで壁を構成しているらしい、素敵な家の写真です。暑くなく、寒くない高地に、風の吹き抜ける家を建てて過ごせたらなんて素敵でしょう。「編めば庵、解けば草」を座右の銘としている私の理想の家でした。



結婚披露宴に招かれて



植物園の中の茶店で



見上げるばかりのアボカドの木



涼しげな民家